

辞書と新聞にみる男性と女性

遠 藤 織 枝

はじめに

国語辞典でたとえば「男」をひくと「男性、男子」と書かれており、それではと「男性」をひくと「男、男子」と書かれていて、その違いが明示されていないことが多い。しかし、実際生活では区別して使われている。

こうした辞書の語釈では区別されていない男性、女性に関する類義語について調べてみたのが以下の報告である。

調べる対象としては国語辞典と新聞を選んだ。

国語辞典を選んだのは、その語釈がまず問題になるからであり、その「男」なり「女」なりの語釈を通じてそれらの語義を知り、同時にそれらの相違を知ることができると考えるからである。さらに、「…の男」「…する女性」のように語釈の中に使われている語が「男」であるか「男性」であるかを調べることで、辞書の記述の中での使用傾向がわかり、それにより類義語相互の区別ができるだろうことが予想されるからである。

対象とした辞書は④『新選国語辞典』（小学館、1981・1）⑤『岩波国語辞典』（岩波書店1980・7）⑥『学研国語辞典』（学研、1981・2）⑦『新明解国語辞典』（三省堂、1981・2）⑧『学研国語大辞典』（学研、1981・2）の5辞典である。④⑤⑥⑦は小型で、日常生活に最も必要な基本的な語が集められていると考えられるもの。⑧は中型で2270ページ、語彙数約10万語と、よりくわしいものである。⑥と⑧は同じ出版社のものであるが、編著者は全く別であるし、⑧は語数約4万7千語で、小型の中でも少ないもの（ということは、より基本的な語だけと考えられる）の例として選ぶことにした。ここでは④を『新選』、⑤を『岩波』⑥を『学研』⑦を『新明解』⑧を『学研大』とそれぞれ略記することとする。

次に、新聞を選んだのは、一番日常的で、一番新しい情報が得られるのではないかと考えたからである。ある時期の2紙の全紙面で「…した男」「女性署長さん誕生」などと、男、女の漢字のつく語を拾って、それらの使われ方の実態をみることにした。

対象とした新聞は『朝日新聞』と『毎日新聞』で6月20日～7月19日までの1カ月のすべての面である。一部の新聞の一時期の紙面によるものであるから必ずしも現在の日本社会での使われ方を反映しているものとは言い難い。しかし、1982年中期の社会での一方面での使い方の実態を知ることはできよう。

表 1 「男」「女」などの記述のしかた

	a 『新選国語辞典』	b 『岩波国語辞典』	c 『学研国語辞典』	d 『新明解国語辞典』	e 『学研国語大辞典』
① 男	①男性。男子。②一人前に成長した男性。 ③男性的な気性の男性。	①人間の性別の一つで女でない方。男子。男性。特に成人男子を指すことが多い。	①男子。男性	① 人間のうち雄としての性器官をもつ方。 ② 「男①」として精神的肉体的に一人前に成人したもの〔狭義では弱い者をかばう積極的な行動をもった人をさす〕	① 人間の性別の一つで女でない方。男子。男性。 ② 成人した男性。一人前の男性。 ③ 女性と肉體關係をもった男性。重員でなくなった男性。
② 男性	おとこ。男子。	おとこ。男子。△主に成年男子をさす。	おとこ	「男②」の意の丁寧表現。女性語。〔若い男の人を指すことが多い〕	男。とくに成人の男。男子。
③ 男子	男児。①おとこのこ。 ②おとこ。男性。	男である子ども。おとこのこ。②男性。男。品格があつて礼儀正しい男子。また、男子の尊称	①男の子。②男の人	①男の子(供) ②(一人前の)男性	①男の子。②成人の男。男性。おとこ。③男らしくりっぱな男。
④ 紳士	①身分教養の高い男。上流社会の男子。シェントルマン。②上品で礼儀正しい人。	上品で礼儀正しい男子。②上流社会の男子。③男子の尊敬のこと	①学問があり、礼儀正しい男子。②上流社会の男子。③男子の尊敬のこと	上品で礼儀正しいことが期待される男の人。セントルマン。	①上流社会の男子。②気品や教養をそなえ、礼儀正しく道義を重んじる男子。ゼントルマン。③(転じて)男子の尊称。「——服」
⑤ 女	①女性。女子。②一人前に成長した女性。 ③女性を「ひと」とよぶかわりにややけいべつしてよぶ語。	①人間の性別の一つで、子を産みうる身体の構造になつてゐる方。男でない人。女子。女性。婦人。成年女子をさすことも多い。	①女子。女性。	①人間のうち、雌としての性機能を持つ方。②「女②」として精神的・肉体的に一人前に成人したものの。〔狭義では、気が弱く、心のやさしい決断に欠けた消極的な性質の人をさす〕	①人間の性別の一つで、子を産む能力をもっているもの。女子。女性。②成人した女性。一人前の女性。婦人。③男性と肉體關係をもった女性。処女でなくなった女性。
⑥ 女性	おんな。	おんな。女子。婦人。△主に成年女子をさす。	女。婦人。	「女②」の漢語的表現。〔「女より上品な表現とされ、大体において若い女を指す」〕	〔人間の〕おんな。婦人。女子。 ⑦多く、成人に対して使う。「おんな」に比べて上品な言い方とされ、「女子」より一般的な言い方。
⑦ 女子	①おんなのこ。むすめ。 ②女性。おんな。 おんなの女性。	①おんなのこ。娘。②女性。女。成人した女。女性。	①女子。②女。	①女の子。②「女一般」の意の漢語的表現。	①女の子とも。むすめ。②おんな。女性。③婦人
⑧ 婦人			おとなになった女。女性。	〔「婦」はよめの意〕社会の中でなんらかの役割を負っているものとしてとらえた女の人〔「女性」より古い語感を与える〕	成人した女の人。一人前である女の人。女性。(「女性」よりやや古い感じのことば)

I 辞書の記述にみる男性と女性

I-1 「男」「男性」「男子」など

「男」「男性」などの類義語の語義が、それぞれどのように書かれているか、上記5辞書の記述でまとめたのが〔表1〕である。以下、各語について考えてみる。

I-1-A 「男」について

「男」を『学研』でひくと「男子。男性」と置き換えられているだけである。『新選』『岩波』『学研大』では、「男子。男性」のほかに「成人した男性。一人前の男性」と「男性」を限定した語釈が加えられている。『新明解』では、置き換えはなく、説明がなされている。これらの辞書の語釈を全部合わせると、「男」とは「人間の性別の一つで、女でない方であり、男子、男性のことであり、一人前に成人した男性」ということになる。『新明解』の〔 〕に入れられた補説には「狭義では弱い者をかばう…人をさす」と書かれているが、これは疑問である。「狭義では」と条件をつけてはいるが「弱い者をかばい」「積極的な行動をする」のは男の特性ではないし、その条件である「狭義」の範囲が明示されていない以上、この語釈執筆者の主観の範囲を出ない独断ということになる。このような内容の補説は規範的性格をもつはずの辞書には不的確と言わざるをえない。もっとも、単なる置き換えて読者を迷わすよりは、キメ細かく説明を補ってできるだけ核心に近づこうとする方が読者にとっても望ましいことなので、補説を全て否定するものではない。

I-1-B 「男性」について

『新選』『学研』では「おとこ。男子」と置き換えられているだけである。『学研』でみる限り、「男」は「男子。男性」であり、「男性」は「おとこ」と記されているのであるからこの2語の語義の違いは全くわからない。完全に男＝男性ということになる。『岩波』と『学研大』では「おとこ。男子」の置き換えのほかに「成年(人)男子」と記されている。『新明解』では「男」の意の「丁寧表現」で、「女性語」とであると、説明がなされている。他の辞書のような置き換えですすだけでなく、それらとの違いをできるだけ明確にしようとする態度は利用者にとって望ましいことである。しかし「丁寧表現」とか「女性語」という説明、それに補説、「若い男の人を指すことが多い」などの記述は、普遍性をもつものであろうか。「丁寧表現」は、「男性」が漢語であること、その漢語が和語より改まった感じを伴うことが多い(注1)点からみて妥当な説明であろう。

「女性語」はどうか。この辞書では女性語の定義は凡例にも記されていないが、辞書中に「女性語」の項目があるので、それによることにする。その語釈に「女性特有の言い回しや単語。丁寧語として『お』を多用したり、感動詞の『あら』とか終助詞の『わ』

を使用するなど」と記されている。しかし、「男性」の語釈のあとに出されている用例は「頼もしい男性。男性美」であり、それがなぜ女性語なのか全くわからない。上記の女性語の定義にあうような用例が示されていないので、なぜここで「女性語」と規定されたのか理解できない。女性が「あの男性すてきね」と言うような例を頭において「女性語」と規定されたのかと推測されるが、その推測が正しいとしても、そのような用法はごく一部にすぎず、このように全面的に規定するのは誤りであろう。また、補説の「若い男の人を指すことが多い」というのは、⑦「男性」そのものが「若い男の人を指すことが多い」のか④「女性語」としての「男性」が「若い男の人を指すことが多い」のか2通りの解釈ができる。⑦であれば、「丁寧表現」の対象となるのは若い男の人よりも年配の男性の方が多いはずであるから、語釈内で矛盾がおこる。④であれば「女性語」として使う「男性」が若い男の人を指すことが多いということでは了解できる。この辞書は補説が多く親切であるともいえる反面で、こうした補説が却って混乱を招いているのである。

以上からみると「男性」の「男」との違いは、「男性」は「男」の中の成人した人を示し、「男」より丁寧な表現として使われることがあるということになる。

注1. 『類義語の研究』国立国語研究所P24

I-1-C 「男子」について

どの辞書でもこの語は2つの語義が書かれていて第1義は「男の子(供)」となっている。この限りでは、「男」「男性」と混同されることはない。

第2義では『新選』『岩波』『学研大』で「男。男性」と置き換えられ、『新明解』も「(一人前の)男性」と、ここでは「男子」固有の語義の説明はなされていない。何らの区別もないのであろうか。

たとえば「紳士」をみると「上流社会の男子」と記されている(『新選』『岩波』『学研』『学研大』)。第1義では「上流社会の男の子」となり、第2義では「上流社会の男」でも「上流社会の男性」でも全くかわりがなくことになる。それでいいのであろうか。「紳士」の語釈として「上流社会の」のあとに「男」「男性」でなく「男子」が選ばれたのは、そこに何らかの違いがあるからではないのだろうか。

しかしこれらの辞書では、その違いは全く明らかにされていない。

I-2 語釈の中の「男」「男性」「男子」

上にみてきたように、これらの類義語それぞれの語釈では、互いの違いはあまり明らかにされなかった。それなら、これらの類義語が他の語の語釈の中で使われているその状況を調べればその違いがわかるのではないかと、また、各語の語義に記されたことの裏付けが得られるのではないかと、と考えて各辞書に「……の男」「……した男性」などと

記されているものをまとめてみた。「青二才」の語釈中に出てくる「……経験のとばしい男」から始めて、「若者」に至るまで約250語の中にこれらの語が使われていた。そのうち5辞書のすべてに採録されている語は20語であった。その使われ方をまとめたのが〔表2〕である。この表でみると語釈の中には「男」「男性」「男子」のほかに「男の人」というのも使われていることがわかる。以下、この4語の使われ方の特徴を探ることにする。

〔表2〕 語釈の中の「男」「男性」「男子」

語	辞書	㊤『新選』	㊦『岩波』	㊧『学研』	㊨『新明解』	㊩『学研大』
①偉丈夫		…すぐれた男	…すぐれた男	りっぱな男	…背も高い男	…りっぱな男
②翁		年をとった男	としとった男	男のとしより (の敬称)	…高年の男性	男の老人
③貴公子		①…家の男子 ②気品のある 男子	…若い男子	①…家の男子 ②上品な男子	…若い男子	…若い男子
④巨漢		…大きな男	…大きい男	…大きい男	…大きな男	…大きな男
⑤好漢		…りっぱな男	…好ましい男	りっぱな男	…期待される男	…感じのいい男
⑥好男子		…のいい男子	…のよい男	…美しい男	…与える男性	…美しい男
⑦作男		…やとわれる男	…農耕をする男	…やとわ れている男	…雇われて いる男	…従事する男
⑧情夫		愛人である男	…愛人である男	…愛人である男	色男。隠し男	…むすんで いる男
⑨紳士	(表1参照) …男	…男子	…男子	…男子	…男の人	…男子
⑩大丈夫		りっぱな男子	りっぱな男子	りっぱな男	…りっぱな男子	…一人前の 男子
⑪年男		…する男	…役の男	…あたる男	…する男の人	…役の男
⑫美丈夫		りっぱな男子	…立派な男	…りっぱな男	…りっぱな男	…りっぱな 男子
⑬美男		美しい男	…美しい男子	…美しい男の人	…整った男子	…成年の男
⑭匹夫		…ただの男	…低い男	…ひくい男	…低い男	…低い男
⑮フェミニスト		…親切な男	…重んずる男	…たいせつ にする男性	…甘い男性	…大切にす る男性
⑯ぶおとこ		…みにくい男	みにくい男	みにくい男	醜い男	…みにくい男
⑰牧夫		…する男	…する男	…する男	…する男	…従事する男
⑱ますらお		…りっぱな男子	…りっぱな男子	…りっぱな男	…りっぱな男性	…りっぱな 男子
⑲老翁		年をとった男	男の年より	年おいた男	…年をとった男性	…年をとった男
⑳老爺		年をとった男	年をとった男	年をとった男	…生きる男性	…になった男
		男 15 男子 5	男 15 男子 5	男 16 男子 2 男性 1 男の人 1	男 9 男子 3 男性 6 男の人 2	男 14 男子 5 男性 1

まず辞書間での語の使われ方の差をみると、『新明解』を除く4辞書では「男」が圧倒的に多く3/4以上を占めている。次が「男子」である。「男性」は『新選』『岩波』では1例もなく、『学研』『学研大』も各1例しかない。

一方、『新明解』では「男」9例、「男性」6例、「男子」3例、「男の人」2例とその使われ方は多様である。

『新選』『岩波』で「男性」が全く使われていないのは、特に「男」と「男性」を区別する必要を感じていないからであろう。

『新明解』で「男性」が多く使われているのは「男」と区別する必要を感じてのことであろうし、当辞書が「男性」を「丁寧表現」として「男」との区別を明記したことを語釈の記述の中で裏付けているともいえる。「…の男」というより「…の男性」の方が改まった感じをもったことは事実であるから、語によってそれぞれのニュアンスに少しでも近づけようとする場合こうした使い分けも必要である。その点で『新明解』の語の多様な使い方は評価できる。ただし、「老爺」の語釈の「著しく年をとったため動作に活発さを失い、過去の思い出に生きる男性」のような一面的で独断的な記述は、辞書のもつ規範性からみて好ましくない。

さて、各語の使われ方をみることにする。「男」は①「りっぱな」「すぐれた」などの修飾語をうけ「大丈夫」「紳士」などのプラスイメージ(注2)の語の語釈の中にも、②「みにくい」「身分の低い」などの語をうけ、「ぶおとこ」「匹夫」のようなマイナスイメージ(注3)の語の語釈の中にも、③「年男」「牧夫」のような中立的イメージ(注4)の語の中にも使われている。

「男性」は『新明解』に偏るが「翁」「好男子」「フェミニスト」「ますらを」「老爺」「老爺」の語の中に使われいづれもプラスイメージの語である。

「男子」も「好男子」「貴公子」のようなプラスイメージの語に使われている。これで「紳士」の語釈に「男子」が選ばれていた理由が了解できる。

「男の人」は「美男」「年男」「紳士」3語に使われているが、ここではプラスイメージと中立的イメージの語に使われている。

以上をまとめると、「男」は①性的機能の雄の方であるもの一般として、②良いイメージのもの、③中立的なもの、④悪いイメージの語、のどれにも使われるが、「男性」「男子」は良いイメージの語にのみ使われる。「男の人」は悪いイメージの語には使われない、ということになる。つまり、「男」は自由に使えるが「男性」「男子」の使い方には制約が大きく「男の人」はこの両者の中間であるといえよう。

注2、3 『ことば1号』P. 41

注4 プラスともマイナスとも評価できないものをさす。

I-3 「女」「女性」「女子」など

I-1で辞書の中の「男性」の側をみてきたと同じ方法で女性の側についてみていく。

I-3-A 「女」について

「女」の語義をみていくと『学研』では「女子。女性」と置き換えられているだけである。他辞書を総合すると、「女」は「人間の性別の1つで子を産む能力をもち、女子、女性のことであり、成人した女性である」ということになる。『新選』では第6義として「『女性』を『ひと』とよぶかわりにややけいべつしてよぶ語」と記されていて「女」がけいべつの意で使われることもあることを示している。『新明解』ではまた補説がほどこされ「狭義では気が弱く…人をさす」と記されている。これもまた執筆者の主観による一面的な記述である。

I-3-B 「女性」について

『新明解』を除く4辞書で「おんな。女子。婦人」と置き換えられ『学研大』では^⑤として「おんな」との違いが記されている。『新明解』では「『女』の漢語的表現」と語釈され、補説で「『女』より上品な表現」とされ、「大体において若い女を指す」とある。

これらをまとめると「女性」は『新選』『岩波』『学研』では「女」と全く同じということになる。『新明解』『学研大』では、「『女』より上品な表現」という点では一致しているが、前者で「若い女」に重点がかかり後者で「成人に対して使う」と記されていることで、その対象とする年齢層では異なっている。「大体において若い女を指す」には疑問が残る。

I-3-C 「女子」について

どの辞書も2つの語義が記されていて、第1義では「女の子。むすめ」とされ、「女」「女性」との違いが明らかになっている。第2義では『新明解』以外では「女。女性」と置き換えられ、『新明解』では「『女一般』の漢語的表現」とされている。当辞書では「女性」も「漢語的表現」とされていたが、ここには「大体において若い女を指す」との補説があるので、それから考えると、「女子」は「女性」より若くない人を意味し、「女性」ほど上品でない表現ということになる。

I-3-D 「婦人」について

『学研』『岩波』『学研大』の「女性」の語釈の中に「婦人」との置き換えがあったため「婦人」もみることにした。この語は『新選』では「おんな。女性」という置き換えだけ、『岩波』『学研』『学研大』では「成人した」とか「おとなになった」とか限定されているが、これは「女性」の語釈にもみられたことなのでその違いはわからない。『新選』では「社会の中でなんらかの…」と説明し「『女性』より古い語感を与える」との補説がつけられている。「社会の中で…」とは「職業婦人」「看護婦」などの語か

らの類推で考えられたのかもしれない。語感については『学研大』でも「『女性』よりもやや古い感じのことば」という補説がつけられている。

〔表3〕 語釈の中の「女」「女性」「女子」「婦人」

語 辞書	a 新 選	b 岩 波	c 学 研	d 新明解	e 学研大
あま(尼)	仏門にはい った婦人	仏門にはい った女	仏につかえる女	仏門に入った女	仏門に入 った女
ウェートレス	女性の給仕人	…女の給仕人	…女の給仕	…運んだり する女性	…女の給仕人
うば (乳母)	…めんど をみる女	…育てる女	…育てる女の人	…育てる婦人	…育てる女
うば 桜	…おとろえ ない女性	…残っている女	…残っている 女性	…といえる女性	…色気の ある女性
うまずめ	…能力のない女	…能力のない女	…能力のない女	…能力のない女	…産めない女
売れ残り	…独身でいる 女性	…独身の女	…独身の女性	…独身でいる こと(女性)	…独身で いる女
オールミス	…結婚しない でいる女性	…独身の女性	…ひとりで いる女性	…のがした女	…結婚しな いでいる女
家 政 婦	…職業とする 女性	…職業の婦人	…てつだう 女の人	…職業とする 婦人	…手伝い する婦人
看 護 婦	…職業とする 女性	…職業とする 婦人	…職業の女の人	職業とする婦人	…職業と する婦人
貴 婦 人	身分の高い婦人	身分の高い 家の女	身分の高い 家の女の人	身分の高い婦人	身分の 高い婦人
グラマー	…美しい女性	…魅力のある 女性	…みりょくの ある女性	…魅力のある 女性	女性の 肉体が…
オ 嬢	…のある婦人	…すぐれた婦人	…すぐれた 女の人	…のある婦人	…才能の ある女性
オ 女	…すぐれた女性	…才能のある女	…才能のある 女の人	…すぐれた女性	…のすぐ れた女性
産 婆	…職業とする 婦人	…職業の婦人	…せわをする女	…職業の婦人	…職業の婦人
淑 女	しとやかな婦人	…しとやかな 女性	…品のある 女の人	…りっぱな婦人	…上品な女性
女 医	婦人の医師	女性の医者	女の医者	女の医者	女性の医者
情 婦	愛人である女	…愛人である女	…愛人である女	…関係にある女	…むすんで いる女
女 給	…接待をする女	…女の給仕	…接待をした 女性	…相手をした 女性	…接待を する女性

語 辞書	a 新 選	b 岩 波	c 学 研	d 新明解	e 学研大
女 傑	…すぐれた <u>女性</u>	…男まさりの <u>女性</u>	…勇気のある <u>女性</u>	… <u>婦人</u> の事業家など	…すぐれた <u>女性</u>
女 工	… <u>婦人</u> 労働者	<u>女性</u> の工場労働者	…働く <u>女の人</u>	<u>女子</u> の工員	<u>女性</u> の工員、 <u>女子</u> 工員
処 女	…ことのない <u>女性</u>	…のない <u>女性</u>	…のない <u>女性</u>	…まだその <u>女性</u>	…していない <u>女性</u>
女 丈 夫	男まさりの <u>女</u>	おとこまさりの <u>女性</u>	男まさりの <u>女</u>	…男よりもすぐれている <u>女性</u>	…やりとげる <u>女性</u>
女 中	…てつだう <u>女性</u>	…召使いの <u>女</u>	てつだいをする <u>女性</u>	…奉公している <u>女</u> の総称	…雑用をする <u>女性</u>
女 優	<u>女</u> の俳優	<u>女</u> の俳優	<u>女</u> の役者	<u>女</u> の俳優	<u>女性</u> の俳優
スチュワーデス	…職業の <u>女性</u>	…係りの <u>女性</u>	…職業の <u>女性</u>	…係の <u>女性</u>	… <u>女性</u> の乗務員
と し ま	…年をとった <u>女</u>	…年のころの <u>女性</u>	…年をとった <u>婦人</u>	…にある <u>婦人</u>	…少し年をとった <u>女性</u>
尼 僧	…にはいった <u>女性</u>	…にはいった <u>婦人</u>	僧となった <u>女の人</u>	<u>女性</u> の僧	出家した <u>女性</u>
ば い た	<u>女</u> をののして	<u>女</u> をののして	<u>女性</u> をののしる語	<u>女</u> をののして	<u>女性</u> をののして
派 出 婦	…職業の <u>婦人</u>	…職業の <u>婦人</u>	…仕事にしている <u>女の人</u>	…職業 <u>婦人</u>	家政婦
美 女	美しい <u>女</u>	美しい <u>女性</u>	…美しい <u>女の人</u>	…きれいな <u>女</u>	美しい <u>女</u>
美 人	美しい <u>女</u>	…美しい <u>女性</u>	…美しい <u>女の人</u>	…美しい <u>女性</u>	美しい <u>女性</u>
ぶ お ん な	みにくい <u>女</u>	…みにくい <u>女</u>	…みにくい <u>女性</u>	…醜い <u>女</u>	…みにくい <u>女</u>
保 母	<u>女子</u> の職員	…保育をする <u>女性</u>	…せわをする <u>女の人</u>	… <u>女子</u> 職員	従事する <u>女の人</u>
ミ ス	未婚の <u>婦人</u>	独身の <u>女性</u>	…していない <u>女性</u>	…のない <u>婦人</u>	未婚の <u>女性</u>
裸 婦	はだかの <u>女</u>	はだかの <u>女</u>	はだかの <u>女</u>	はだかの <u>女</u>	はだかの <u>女</u>
寮 母	…世話をする <u>婦人</u>	…世話をする <u>女</u>	…世話をする <u>婦人</u>	…世話をする <u>婦人</u>	…世話を <u>する女性</u>
レ デ ー	貴婦人、 <u>婦人</u>	貴婦人	すぐれた <u>女の人</u>	貴婦人、 <u>婦人</u>	貴婦人
老 嫗	年とった <u>女</u>	<u>女</u> の年寄り	年おいた <u>女</u>	…とみられる <u>女性</u>	年をとった <u>女</u>
老 女	年とったおんな	年をとった <u>女</u>	年とった <u>女</u>	…年をとった <u>女性</u>	年をとった <u>女</u>
老 婆	年おいた <u>女</u>	年をとった <u>女</u>	年をとった <u>女の人</u>	…目立つ <u>婦人</u>	…のふえた <u>女</u>

語 \ 辞書	a 新 選	b 岩 波	c 学 研	d 新明解	e 学研大
	女 15	女 19	女 11	女 11	女 13
	女性 13	女性 14	女性 12	女性 13	女性 20
	女子 1	女子 0	女子 0	女子 2	女子 0
	婦人 11	婦人 7	婦人 2	婦人 14	婦人 6
			女の人 15		女の人 1

以上から「婦人」は「成人した女性で、社会的な役割をもつ人としての女性で、しかも女性より古い感じのすることば」ということになる。

I-4 語釈の中の「女」「女性」など

以上にみたところでは語義だけでは類義語間の相違をはっきりしない。また、「大体において若い女をさす」などと書かれていることが妥当かどうか判断できないので、男性の場合で行なったと同じく、女性の側についても各辞書の記述の中のどのような場面でこれらの類義語が使われているか調べてみた。「悪女」の「心よくない女」にはじまって「わらわめ」に至る約380語のうち5辞書の全部に採録されている40語の記述の中の「女」「女性」などを記したのが〔表3〕である。1語の語釈の中に「婦人」と「女性」、「女」と「女子」など2語以上使われているものは先に記されているものだけをとった。

まず辞書間の使われ方をみると『新選』『岩波』では「女」が一番多いが、『学研』では「女の人」、『新明解』では「婦人」、『学研大』では「女性」がそれぞれ最も多く使われている。

各語についてみると「女」は①「ぶおんな」「ばいた」のようなマイナスイメージの語にも②「女医」「乳母」のような中立的なものにも③「貴婦人」「美女」のようなプラスイメージの語にも使われている。

『新選』の「女」の語釈の中に「ややけいべつしてよぶ語」という記述があった。

では、当辞書で「女」はどのような語に使われているか。『新選』で「…の女」のように語釈の中に「女」が用いられている語は「乳母、うまずめ、情婦、女給、女丈夫、女優、としま、ばいた、ぶおんな、美女、美人、裸婦、老嫗、老女、老婆」の15語である。このうち5辞書に共通して「女」が使われている語は「うまずめ、情婦、裸婦」の3語である。『新選』で使われていた15語のうちこれら3語を除く12語は「女」以外の語を使って語釈することが可能だということである。「女」を「ややけいべつしてよぶ語」と記した辞書で、他辞書では用いていない語に「女」を用いているとすればその語の人物を当辞書の執筆者は「ややけいべつして」みているのではないか。『学研

大』『新明解』の「『女性』が『おんな』より上品」とされる補説をみても「女」は「女性」より品位の下がる表現ということになるので、「女」を使う際にはそれなりの判断があつてのことと見られる。

「女」の使われ方の少ない『学研』『新明解』『学研大』ではそれぞれ「女の人」「婦人」「女性」が多く使われ、上記のような「女」のマイナス面を考慮していることが窺われる。『学研』『学研大』ではのしる語とされる「ばいた」にも「女」ではなく「女性」を用いている。

生理的機能を表わす際の女は、「女」でしか表わせないから、それは当然「女」を使うとしても、「婦人」でも「女性」でも「女の人」でも表わせる場合に「女」を用いることは、その人物を「ややけいべつし」「上品でないことば」で表現したことになる。もっとも「女性」は漢語的であり、「婦人」は少し古い感じであるから「女」の方が身近で親しみやすい、という感じ方もあるかもしれない。しかし、それはまず「けいべつ」や「下品」とされる意識がなくなって、どんな語にも「…の女」「女の…」が使われるようになったあとの選択の問題になるのではないか。

「女性」「女の人」についてみると、「けいべつ」し「上品でない」とされる「女」に代わるものとして使われている語であることがわかる。I-3-Bで『新明解』の「女性」を「大体において若い女…」とする補説に疑問を残しておいたが、同辞書では「としま」「老嫗」の語釈に「女性」を用いている。つまり同一辞書内で自己矛盾をおかしていることになる。やはりこの補説は削除すべきであろう。

「女子」は3例のみであるが、いずれも「女子の工具」「女子職員」のように修飾語として使われている。「…の女子」のような独立の役割として使われている例はない。

「婦人」は「看護婦」のように、「婦」のつく語の語釈に多く使われている（貴婦人、家政婦、派出婦）。しかし「婦」がついても語釈に「婦人」が使われていないのものもある（裸婦、情婦）。見出し語に「婦」がつかなくて、語釈に「婦人」が使われているのは「産婆」「寮母」「才媛」「レディ」などである。また、『学研』では、「婦人」は2語にしか使われていなくて（寮母、としま）「婦」のつくことばにも「婦人」は使われていない。

『新明解』『学研大』に「婦人」は「女性」より古い語感とされていたが、これらの語からそうした違いが出てくるだろうか。古い語感といっても、「古い」のが語の成立時期なのか、語の表わす人物像なのか——語ができたのは古いが、その人物に対する感じは新しいこともあるし、逆の場合もある——不明であるし、感覚自体が個人的なものであるからそれを論じ合うことは意味がないかもしれないが、語の違いを論ずる際の1つの尺度でもあるので（注5）、「語感」を少しでも普遍化させることができれば有効であるはずである。ここでは「古い語感」とした辞書が、どんな語の語釈に「婦人」を使っているかをみている。そうすればその辞書の「古い語感」とする語がわかり、同時に

「古い語感」も具体的になるはずである。

『新明解』で「婦人」を用いていたのは「乳母、家政婦、看護婦、貴婦人、才媛、産婆、淑女、女傑、としま、派出婦、ミス、寮母、レディー、老婆」の14語である。

『学研大』では「家政婦、看護婦、貴婦人、産婆、家政婦、レディー」の6語である。「乳母」や「産婆」「貴婦人」は語の成立も古く、しかもそのような身分、職業が現在では古いものとされている点で「古い語感」とする「婦人」が使われていることは理解できる。しかし「看護婦」「ミス」「レディー」などが「古い語感」の語とされる「婦人」で語釈されているのは私にはうなずけない。「看護婦」の場合は「婦」がつくから語釈に使われたのかもしれないが、『新選』『学研』では「看護婦」の語釈に「女性」「女の人」を用いているのであるから必ずしも「婦」のつく語に「婦人」を用いなくてもよいのである。

これらの「婦人」の使われ方をまとめると以下ようになる。①「婦」のつく語、職業、身分を表わす語に多い（派出婦、寮母）。②「古い語感」の語に使われることがある（乳母、産婆）。③外来語にも使われる（ミス、レディー）。④年齢を問わず用いられる（才媛、老婆）。

こうしてみると『新明解』などの補説は、部分的には正しいが、全面的に正しいとは言えなくなる。

注 5. 『類義語の研究』P 22

Ⅱ 新聞にみた男性と女性

『朝日』、『毎日』2紙の第1面から最終面まで、広告欄も含めて全ての記事から「男」「女」のつくことば（地名などにつくものは除く）を集めた。「…の男」「…した女性」のようなものと、「男心」「女医」のように複合語・熟語の部分に「男」「女」の語の入っているものを集めて表現の型と語の結合のしかたで分けてまとめたのが〔表4〕〔表5〕である。連体修飾句はその修飾する人物に直接かかる部分だけをとった。異なる複合語、修飾語句のもののみ集め延べ語数としてはみしていない。

男なり女なりの語が上につくものについては、結合した語の表わす内容上、①「男友達」のように「男」と「友達」が同一人物を示すもの、②「女ごころ」のようにその人物の所有を表わすもの、③「男運」のように相手側からみたもの、の3つの型に分け①を同格型、②を所有型、③を対象型とした。「女性史」のように「女性」の所有になるし、対象ともなる両者に属するものは、ここでは一義的と考えられる所有型に入れることにした。

男なり女なりの語が下につくものについては、その語の前にくる修飾語句の品詞を中心に分けることにした。

〔表4〕新聞に表われた男性

上につく場合	語	男 174例(56.8%)		男性 57例(18.6%)		男子 50例(16.4%)		紳士 25例(8.2%)		306例(100%)
		a ① 男+〇〇 ② 同格型 男やめ 男友達	17 (4)	a ① 男性+〇〇 ② 男性官僚 ③ 男性喫煙者 ④ 男性頭髪 ⑤ 男性ホルモン ⑥ 男性親 ⑦ 男性関係	23 (12)	a ① 男子+〇〇 ② 男子警官 ③ 男子職員 ④ 男子バレー ⑤ 男子便所	43 (31)	a 紳士+〇〇 ② 紳士上着 紳士ベルト	22 (22)	
下につく場合	複合語	b ① 男+〇〇+男 ② 同格型 男の先生 男の店員 ③ 所有型 男の髪 男のロマン	44 (9) (35)	b ① 男性+〇〇+男 ② 男性の研究 ③ 男性のミイラ ④ 男性のくちびる	8 (3) (5)	b ① 男子+〇〇+男 ② 男子のたばこのみ	2 (1)			
		c ① 〇〇+男(おとこ) ② 〇〇+男(なん)	16 4	c ① 〇〇+男性 ② 中年男性 ③ 白人男性	7	c ① 〇〇+男子 ② 美男子 ③ 成年男子	4	c ① 〇〇+紳士 ② 中年紳士 ③ エセ紳士	3	
		d ① 〇〇+男 ② 〇〇+男 ③ 中年の男 ④ 顔面筋の男 ⑤ 用言+た(た)+男(た型) ⑥ 捕まった男 ⑦ 大統領を撃った男 ⑧ 動詞・助動詞連体型+男 ⑨ 別れを惜しむ男 ⑩ わけのわからぬ男	27 31 19	d ① 〇〇+男性 ② 年配の男性 ③ 半身まひの男性 ④ 窓に敗れた男性 ⑤ 妻子ある男性	12 1 5	d ① 〇〇+男子 ② 高校生ふうの男子	1	e ① 〇〇+紳士 ② パリッとスーツ ③ を着込んだ紳士	1	
		e 形容詞連体型+男 おもしろい男 惜しい男 f 形容詞連体形+男 魅力的な男 不審な男	6 10	e ① 〇〇+男性 ② 妻子ある男性 ③ 失れた男性	0 1					

〔表5〕 新聞に表われた女性

上につく場合	複合語	女 171例(30.0%)		女性 245例(43.0%)		女子 76例(13.3%)		婦人(婦) 77例(13.7%)		569例 (100%)
		a 女+○○ ① 同格型	26 (18)	a 女性+○○ ① 女性市長 女性タレント	81 (44)	a 女子+○○ ① 女子社員 女子大學生	68 (51)	a 婦人+○○ ① 婦人市議 婦人労働者	48 (6)	
下につく場合	連体修飾句	② 所有型 女ごころ 女鼻さ	(6)	② 女性誌 女性犯罪 女性解放 女性讃歌	(23)	② 女子マラソン 女子バート	(17)	② 婦人教育会館 婦人セーター	(39)	
		③ 対象型 女嫌い 女件れ	(2)	③ 女性解放 女性讃歌	(9)			③ 婦人解放 婦人学校	(3)	
	複合語	a' a'' a''' ⇒ A b 女+の+○○の赤ら ① 同格型 さん ② 所有型 女のいのち 女の執持	58 (5) (53)	b 女性+の+○○ ① 女性の遺体 女性の買物客 女性の地位 女性の文化活動 女性の能力活用 女性の身元確認	52 (9) (38) (5)	b 女子+の+○○ ① 女子のたばこのみ ② 女子の教育	3 (1) (2)	b 婦人+の+○○ ② 婦人の家	2 (2)	
		c ○○+女(おんな) 酔いどれ女 置き引き女 c' e'' ⇒ B	9	c ○○+女性 実力派女性 子持ち女性	34	c ○○+女子 高校女子	4	c ○○+婦人 アメリカ婦人 ○○+婦人 佐賀県安婦 従軍婦 売春婦	4 11	
	連体修飾句	d ○○+の+女 素顔の女 初老の女 e 用言+だ(だ)+女(た型) 夫を失った女 リンチされた女	22 7	d ……+女性 ヒバクシヤの女性 一人暮らしの女性 自殺を決意した女性 たくましく生きた女性 f ……+女性 特別な才能をもつ女性 見知らぬ女性	43 13 13	d ……+女子 中三の女子	1	d ……+婦人 おおきなおなかの婦人 クリスチャンの婦人	8	
		f 動詞+助詞連体形 +女 (非た型) 気になる女 とんでる女	21	e ……(た)+女性 自腹を決意した女性 たくましく生きた女性 f ……+女性 特別な才能をもつ女性 見知らぬ女性	13	⇒ A a' 女(じょ)+○○ ① 同格型 女教師 ② 所有型 女権	23 (15) (8)	f ……+婦人 働いている婦人 恵まれぬ婦人	4	
	複合語	g 形容詞連体形+女 明るい女 かしこい女 h 形容動詞連体形+女 個性的な女 嫌いな女	9 4	g ……+女性 運の悪い女性 若い女性 h ……+女性 おだやかな女性 スリムな女性	5 4	⇒ B c' ○○+女(じょ) 修道女 c'' ○○+女(め) 乙女	(1) 19 1	g ……+婦人 若い婦人	1	

Ⅱ-1 「男」「男性」「男子」「紳士」

Ⅱ-1-A 上にくる場合の複合語

「男」のつく複合語をみると、「男」が和語であるからそれにつく語も和語であることが多い(17例中14例)。「男+漢語」の例は「男社会、男運、男次第」の3語である。

「男性」の場合は漢語であり、結合する語も漢語(外来語1例)のみで、「男性+和語」の例はない。

複合語の表わす内容としては、「男」の場合は、同格型の「男友達」「男やもめ」にしても、所有型の「男臭さ」「男手」にしても身近な具体的な人物であり、その男に内在するものである。「男性」の場合は所有型では「男」の場合と同じく「男性」に内在するものである「男性ホルモン」「男性頭髪」の例があるが、同格型では「男性官僚」「男性観客」のような社会的抽象的な内容を示すものである。和語の方が具体的、漢語の方が抽象的な意味において有力(注6)だからであろう。

「男子」が上にくる複合語の例は、「男性」の場合より多いが、これは求人広告で「募集男子営業マン」。男子技術部員募集」など職種や身分を明記したものが各種あること、さらにスポーツ面で「男子バレー」。男子シングルス」といったスポーツ種目と結合したものが多いためである。一般社会面、家庭面などに出ていたのは「男子生徒」。男子店員」など8例にすぎない。「男子生徒」。男子学生」の場合の「男子」はIでみた「男子」の語義の第1義とされていた「男の子」に当たるものである。したがって「〇〇生徒」「〇〇学生」につくのは「男子」であって「男性」ではないことがわかる。しかし「男子教諭」。男子職員」となると「男子」の第2義で「男、男性」とされていた方であり、その意味で「男性職員」などの複合語と併存していることになる。この両者の違いは「男性職員」の方が「男子職員」より改まった感じで使われており、表わされる人物も前者の方が年齢、経験が上の人のような感じを受ける。

「紳士」に移る。この語は「男性」などの類義語ではなく当初調査の対象にしていなかったが、広告欄のデパートの衣類の宣伝では必ず「紳士服」と「婦人服」という組合わせて記されているのでとり上げることにした。

「紳士〇〇」が22例あるが、これは全て広告欄から採取したものである。この「紳士」は『学研』『学研大』の第3義に記されていた「男子の尊敬語」にあたる。たとえば「紳士靴」は紳士の第1義である「身分教養の高い礼儀正しい男子」の靴を指すのではなく、一般男性の用いる靴のことである。「男子靴」「男性靴」ともいえるのを「紳士」にしたのはより高級なイメージを付加しようとしたためである。「女性」の場合は「婦人セーター」。婦人サンダル」であって「淑女〇〇」ではない。ここでは「紳士」に対応するものは「婦人」である。男性の側では「男子の尊敬語」としての「紳士」が使われ、女性側では「婦人」でしかも辞書によっては「『女性』より古い語感」とされて

いる語が使われているということになる。最新の品々をとり揃え、外来語を氾濫させているデパートの宣伝の語句に「婦人」が多用されているところを見ると、ここでは「女性」より古い語感とはとられていないとみられる。この点からも先にみた辞書の「婦人」は「古い語感」という補説にはうなずけない点が残る。

注 6 「類義語の研究」P 2 2

Ⅱ-1-B 「の」の入る場合

「男の〇〇」「男性の〇〇」になると前者の方が後者の5倍以上も採集されている。複合語の場合は「男性客」のように「男性〇〇」の方が「男〇〇」より多かった。これは「男〇〇」では和語どうしの結合が多かったが、漢語の語彙の方が多いことの反映として漢語どうしの結合の複合語が多かったからである。ところが「の」が入ると、その後続く語は前の語が和語か漢語かという語の種類の制約から自由になり、「表6」のようになる。

〔表6〕

「男」には漢語がつきにくかったのが「男の」で漢語が抵抗なくつけられるようになり、

	漢 語	和 語	外 来 語	計
男 の	19 例 (男の責任)	20 (男 の 声)	5 (男のロマン)	44
男性の	5 (男性の権利)	2 (男性の場合)	1 (男性のミラ)	8

「男性の〇〇」より例が多くなっている。

「男子の〇〇」については例数が少ないのでこの型のものの特色は不明だが、「男子〇〇」が多かったのに「男子の〇〇」が少ないということで「男子」の語の使い方の特徴が明らかになっている。つまり「男子」は単独で使われることが少なく、たいていは「男子社員」や「成年男子」のように他の語と結合して使われる語だということである。これは「男」「男性」の例と比較した〔表7〕でも明らかである。

〔表7〕

	複合語の例	単独使用の例
「男」 174 例中	37	137
「男性」 57 例中	30	27
「男子」 50 例中	47	3

Ⅱ-1-C 下につく場合の複合語

「男」では「長男」のように男との結合が1次的で熟語になっているものと、「中年男」のような2次的な結合のものと2種類ある。熟語は問題の性質が異なるのでここでは触れないことにする。2次的結合で多いのは「爆弾男」「侵入男」のような新聞の見出し特有の短縮形である。しかも事件の犯人に関するものが多い。このような複合語は雑誌、文学作品などの調査ではあまりみられないと思う。

「酒酔い男」「放火男」はあるが「酒酔い男性」「放火男性」がないのも「男」と「男性」の違いを知る手がかりになる。「〇〇男」の例では16例中このような犯罪に関するものが10例と、あとは「だめ男、純情男」などである。「〇〇男性」は7例あるが、犯罪に関するものは1例もない。つまり「男性」はマイナスイメージの語とは結びつきにくい語で、「男」と比べて上品な語ということなのである。これは「〇〇+の+男(男性)」の例でもいえる。

Ⅱ-2 「女」「女性」「女子」「婦人」

Ⅱ-2-A 上につく複合語の場合

まず、全体の採集例の語別の比率をみる。男性側では「男」が過半数を占め「男性」の3倍にも及んでいた

〔表8〕

が、女性側では「女性」が最も多く、「女」の1.5倍となっている。

男	男性	男子	紳士	計
174 (56.8%)	57 (18.6%)	50 (16.4%)	25 (8.2%)	306 (100%)
女	女性	女子	婦人	計
171 (30.0%)	245 (43.0%)	76 (13.3%)	77 (13.7%)	569 (100%)

「女」のつく複合語をみると「女親、女手」など「女+和語」8例に対し、「女主人公、女知事」など「女+漢

語」14例となっている。これは「男〇〇」の場合と様相が異なっている。「知事、主人公」などという社会的役割を表わす語は漢語が多く、それらはもともと男性を表わすものであった。そこへ近年になって女性でそのような役割を担う例が出てきたが、後発のまだ珍しい存在であるから、それらの役割・官職などを表わす語の上に「女」を冠して「女知事・女主人公」のような複合語ができたのである。したがってこのような官職・地位・役割などを表わす語と結びつく複合語が女性側に多いのも当然のことであり、和語+漢語」の結びつきの例も多いということになる。

「女性」のつく複合語をみると「女性向け、女性側」のように和語と結びついているのは3例で大部分は「女性市議、女性官僚」など漢語と結びつくもの(67例)か「女

性タレント」など外来語と結びついたもの（11例）である。外来語との結びつきは「女性エスペランチスト、女性ドキュメンタリスト」などもあり、新しい職業や役割の語が外来語でとり入れられ、そうしたものの結びつきは「女」とより「女性」との方が自然に行われ、今後こうした語は多くなることが予想される。

「女子〇〇」の複合語は「男子」の場合でみたことと同じことがいえる。「婦人〇〇」はデパートの広告に使われるものは「紳士」のところで触れたが、それ以外のものでは「女性」との違いを考えてみたい。「女性〇〇」と「婦人〇〇」で〇〇の部分が共通するものがある。〔婦人解放・女性解放〕〔婦人団体・女性団体〕〔婦人市議・女性市議〕などである。前の辞書の補説でみた「『婦人』が『女性』より『古い語感』」はここではどうなるだろうか。これらの組でみるかぎり、「女性」は生理的に女の機能をもつものの全体を表わしているのに対し、「婦人」はその「女性」の中の年齢的に高い部分の人々を示していると考えられる。

次に「女性〇〇」には少なく、「婦人〇〇」に多いものは、「婦人有権者同盟」「〇〇婦人会」のように組織・団体名として使われる例である。また、「婦人学級、婦人教育会館」など教育に関するものも「婦人」にはあるが「女性」にはない。

一方、「女性〇〇」に多いのは「女性市長、女性社員、女性タレント」など、身分・職業を表わすものである。

以上の例などから考えると「婦人」「女性」の違いは、語感の古さ、新しさも一部はあるとしても、その他にその語の覆う範囲の違いとして、①「女性」の方が広い。②教育・団体などに関するもの——個々の人物よりマスとしての存在——は「婦人」が多い。③職業・身分など個々の存在を表わすものは「女性」が多いなどがあげられる。

Ⅱ-2-B 「の」の入る場合

「女の〇〇」と「女性の〇〇」を比べると、ここでは前者の方が後者よりやや多い。全体数で「女性」の方が多かったことからみれば、この型に関しては「女の〇〇」が非常に多いことになる。和語、漢語などとの組み合わせの型で分けると〔表9〕のようになる。

〔表9〕

「男の〇〇」の場合は〇〇にくるのが和語、漢語ほぼ同数であったが「女の〇〇」では漢語がくる方が多くな

	漢 語	和 語	外 来 語	計
女 の	32 (例女の発言)	23 (女 の 子)	3 (女のチャンス)	58
女性の	34 (女性の関心)	13 (女性の首)	5 (女性のパート)	52

っている。「女の声」「女性の声」のように「女」も「女性」も共通の語を所有する例

があるが異なる点としては、「女の」に多くつくのが「からだ、いのち、全身、生涯」といった和語も漢語も個人的な身近なものであるのに対し、「女性の」の後にくる語は「集い、生き方、権利、存在」などの社会的・一般的な広範囲の事象を表わす語が多い。これは和語である「女の」と、漢語である「女性の」のそれぞれのカバーする領域の差の表われである。

Ⅱ－２－Ｃ 下につく場合の複合語

「女」が下につくものでは「悪女」「乙女」のような音よみのものもあるが、これらは熟語なので除外し、「〇〇女」のものについてのみ考える。この例では①「置き引き女・酔いどれ女」のような犯罪、迷惑に関するもの、②「フランス女・網走女」のような地名・出身を表かす語と結合したもの、③「中年女・三十女」のように年齢を表わすものとの３種類がある。

「〇〇女性」は３４例で「〇〇女」９例に比べはるかに多い。この型の人物では①「アメリカ女性・白人女性」など出身・出自を表わすもの、②「二十代女性・現代女性」など年齢・時代を表わすもの、③「共働き女性・実力派女性」など能力・状態を表わすもの、の３つの型がある。「〇〇女」の型の①でみたようなものは１例もない。Ⅰの辞書での使われ方でみたように「女性」が「女」より「上品な語感」から、犯罪など品位の下がるものとの結びつきが「女性」にないということなのであろう。年齢を表わすものでは「中年女」「中年女性」と「中年」はどちらにもつくが「三十女」に対して「二十代女性」の例は品位の上下でみると「二十代」は上品な「女性」であるが「三十」以上になると、品位の下がる「女」と結びつく方が自然だということであろうか。どちらも１例ずつなので偶然性も考えられるが、「二十女」と「三十代女性」よりは「三十女」と「二十代女性」の方が現代日本語としては存在しやすいようである。

「〇〇女」「〇〇女性」でみると「〇〇女」では①「漢語女・北富士女たち」など出身・出自を示すもの、②「初老女・明治女」など年齢・時代を示すもの、③「なみの女・素顔女」など状態を示すものに分けられる。「〇〇女性」でも、①「インド女性・先進国女性」②「中年女性・最近女性」③「普通女性・落馬事故女性」など全く同じような人物を「女」でも「女性」でも表わしている。「の」が入ると「女」と「女性」の使い分けが少なくなると言えそうである。また、「〇〇女性」と「〇〇女」と〇〇が共通する例が多い（インドの女性、インド女性。独身の女性、独身女性）。〇〇の部分が漢語や地名の場合「の」が脱落して複合語になりやすいと言えよう。一方、「〇〇女」から「の」が脱落して「〇〇女」になりうるものは少ない。「素顔女」が「素顔女」に「農民女」が「農民女」になることはない。「〇〇女」の〇〇は、先にみたように「奴隷女・酔いどれ女」など好ましくない意味内容が多くなる。そこから「〇〇女」自体もマイナス評価の語になりやすいので、

「女性」の場合のように安易に「の」を落とせないであろう。

まとめ

辞書を調べてみて気がついたことは、①各類義語間の相違が明確にされている辞書は少ない、②相違点を明らかにするのは望ましいが、主観的・独断的な記述は避けるべきだ、③相違点を述べる際は、一面的判断に陥らないよう、実際の用法と照らしあわせて行なってほしい、④品位の上下、軽蔑などの含まれる語の使い方に対する配慮がなされている辞書と全くなされていない辞書がある、などである。

辞書がことばを知るためのものである以上、できるだけその語に迫る語釈がほしい。しかし、そのために独断や偏見が交えられては利用者を混乱させてしまう。辞書の規範性を考えても公正な記述が望まれるし、それに近づくための配慮を期待したいと思う。

新聞については、Ⅱの報告の他に、連体修飾句を「た型」と「非た型」にわけると、男性側に「た型」が多く、女性側に「非た型」が多いことなどもわかったがここでは紙数の都合で詳述は省く。

Ⅱを通じてわかった主なものは以下の4点である。①男性側では「男」が、女性側では「女性」が最も多く使われている。辞書でみた「女」の語のもつ“品位”とも関係がありそうである。②「男子、女子」は単独で行われることは少ない。③デパートの宣伝では、男性はすべて「紳士」であり、女性はすべて「婦人」である。ここでの「紳士」の対義語は「婦人」である。④「婦人」と「女性」の違いは語感だけではない。

これらは一時期の一部の新聞からの結論にすぎない。さらにジャンルを広げて使い分けの実態を知る必要があるし、使う人の側からみた語の使い分けについても調べなければならないだろう。そうして、この種の類義語の実際上の使い分けを明らかにして、辞書の記述にもそれらが反映されるようになること、これが今後の課題であり、希望である。

(1982. 8.20)